



鶴見区民会議は、誰でも自由に参加できる話し合いの場です。話し合いから、うるおいがあり、心安らぎ、また活力のある地域社会づくりのアイデアが生まれます。

編集発行 鶴見区民会議運営委員会  
承認 鶴見区第 2 号

## 安全で健やかに暮らせる魅力あるまち

平成 28 年 11 月 17 日（木）鶴見公会堂で、鶴見区民会議を開催し、「安全で健やかに暮らせる魅力あるまち」をテーマに、地域でできることを、参加者の皆さんと考え、話し合いました。

### ★講演会「ここでしか聞けない最新の防犯対策～被災地から学ぶ地域の取組～」

講師：国崎 信江 氏

株式会社危機管理教育研究所の国崎代表に講演していただきました。

被災地で起こる犯罪の具体例を基に、普段から注意すべきことや災害時に備えてどのように対策するかを改めて考えさせられる講演会となりました。

大災害が起こると、治安が悪くなるのが世界の常識といわれています。

実際に、被災地では窃盗、空き巣、詐欺、性犯罪などの様々な犯罪が起きてしまいました。ニュースで報道されることはほぼ無いのが被災地の犯罪の特徴です。

地域でご活躍されている皆様には、被災地でこれらの犯罪が実際に起こっていることを踏まえ、いつもの活動にプラスして声掛けや地域への情報提供等、安全な生活が続くように、防犯対策、環境づくりをお願いしたいと思います。



### ★第 1 分科会「防犯」（振り込め詐欺防止、子どもの安全）



<こんな意見がありました>

◇相手からお金の要求時に ATM に誘導されたら詐欺

◇防犯パトロールのチョッキを着用することにより不審者をブロックできている

まず始めに、区民会議の意義の説明がされ、活発な話し合いを促しました。その後、参加された皆様に、振り込め詐欺・子どもの安全に関する話し合いを進めていただきました。

振り込め詐欺について、まず司会者より、振り込め詐欺の件数、金額について説明がありました。

次に、参加者が実際に体験した振り込め詐欺の案件内容の報告（例：還付金詐欺、老人ホームに当たったので保険金を振り込め、業者を装い盗難、孫を装われお金が欲しいと言われる）があり、多種多様な詐欺の手口があることを改めて共有しました。

結論としては、電話の相手からお金の要求があったとき、特に ATM へ誘導された時はまず詐欺を疑うべきだとしました。

子どもの安全について、まず参加者より現在実施している各町会における小学生登下校の見守り、夜間パトロールについて現状の説明がありました。

次に、上記の実施により、2 年前は挨拶をしてくれることもが 2 割程度だったが、現在は 8 割程度に増えたとの報告や、防犯パトロールのチョッキは不審者対策になっているとの意見がありました。

各テーマとも活発な意見が出されましたが、参加者の皆様が地域に戻られた後、日ごろの活動において何らかの形で生かされるよう期待しています。

## ★第2分科会「福祉・見守り活動」（高齢・障がい、生活困窮、災害時要援護者）

<こんな意見がありました>

- ◇自助努力の啓発をしている
- ◇緊急連絡カードや要援護希望カードを作り、緊急時に備えて見守り体制を整えている



最初に、災害時要援護者活動や、地域ケアプラザの事業紹介がありました。その後、テーマに関する参加者各地域の事例や課題についての議論を行いました。

各地区ともに多様な活動をされており、「緊急連絡カードを各自が緊急時に備えて身に付けている」「災害時のための要援護希望カードを作り町会で管理している」「地域ぐるみで見守り活動を行い、自助努力の啓発もしている」「安心ホルダーを使用している」などの紹介がありました。

また、見守り拒否や、名簿作成でのトラブルなどで問題になってしまった際には、地域ケアプラザや区役所担当部署に相談をするべきとの意見がありました。あわせてケアプラザ等にはこれらに関する情報が集められており、専門の機関ゆえに見守り活動の意義について要援護者とその家族を説得し易い上、納得もして貰い易いとの意見がありました。

生活困窮者に関して、景気低迷や高齢化によりその数は増加しており、地域での見守りが必要になることが予想されるため、現在民生委員が町会役員会や班長会議に参加している例が紹介されました。

また、これまで民生委員に限定されていた活動が町会役員などに拡大することに伴うプライバシー問題についても今後勉強会を開き、拡大した関係者への啓発を行っていくと報告がありました。

これまでの議論を通し、関係機関も一体となった地域のふれあい、支えあいが一層必要だという結論に至りました。

## ★第3分科会「鶴見の魅力」（90周年の歩み、こうなるといいな）



<こんな意見がありました>

- ◇鶴見のまちはイベントが多く、景色も良い
- ◇より活性化を図るため、情報発信・みどころ強化・鶴見ステータスの創出・交通の拡充を望む

まず始めに司会者より、区民会議の意義の説明と、参加者の自由な発言を促し、「こうなるといいな」の視点を重点にして話し合いを進めました。

主な意見として、「講堂・ホールを新設してほしい」「鶴見線沿線は景色の良いところが多いのでPRを強化すべき」「中距離電車が鶴見駅に停車してほしい」「みどころとして桜のスポットを拡充すべき」「みどころ80やワックンカルタ等の印刷物を外部にもっと発信すべき」「名物グルメがたくさんあるが、プラスで多文化共生を活かしたものを創出してほしい」などの意見がありました。

参加者より「鶴見は良いところばかりです。イベントも多いし景色も良い」と発言があった際に、同感者が多く、それぞれに鶴見に対するあたたかい想いが感じられ活発な分科会となりました。

## ★全体会 「講評」 国崎 信江 氏

犯罪は、知識のなさで被害にあってしまうことがあるという特性があります。新たなケースも増えていくので、事例を情報提供していたことが良いと思います。振り込め詐欺などでは親子関係が崩れてしまうこともあるため、被害者の心のケアも大切だと思います。

日頃からの見守りは災害時に影響してきます。私の経験では、避難所に住んでいる要援護者の状況はすぐ入ってきますが、家に住んでいる要援護者の情報がなかなか把握できませんでした。各々で情報を集めても、そこで共有できず情報の一元化が出来ないという問題もありました。普段からの見守りが災害時に活きます。「四葉のクローバー」の活動がもっと広がるといいと思います。

鶴見の魅力を発信していきたい、もっともっと知ってもらいたいというとき、「誰」に「何」を伝えたいのかを考えると良いと思います。4年後にオリンピックの開催も控えています。外国人の多さを強みとして、鶴見から世界へ発信する取り組みを行うと良いのではないのでしょうか。

私は横浜出身で、鶴見区にも親しみを感じています。区制90周年に向けてますます鶴見区が魅力ある、ここに生まれて住んで良かったというまちに、皆さんの力でなっていくことを期待しています。

※「四葉のクローバー」の活動…民生委員・保険推進員・老人会友愛委員・自治会役員で結成される、地域ぐるみの見守り活動